

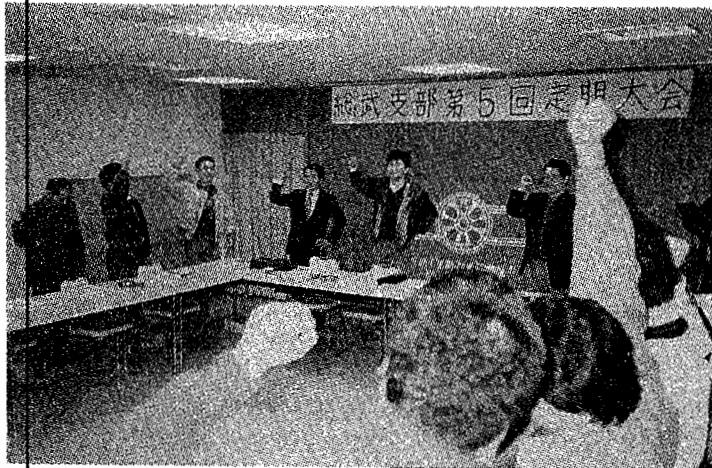


月刊労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936番
(公) 043(222) 7207番

92.12.11 No.3707



水なりとも 火ともみなきらせ

総武支部第5回定期大会を鼎催

総武支部は、十二月四日、千葉市「なのはなクラブ」において、第五回定期大会を開催し、闘う方針を確立した。

俺たちは 資本の 奴隷ではない

大会は、最初に高野副支部長の開会の挨拶ではじまる。

高野さんは一年間奮闘してきた組合員に敬意を表したあと、力をこめて「今の社会(資本主義社会)は、景気が良ければ生産性向上・労働強化をおしつけ、今日みたいに危機に入ると『倒産』首きりをおしつけてくる。こんなことを許さないためにも、より団結を固め、抵抗しなければならぬ。」と訴えられ、大会も気合いの入ったスタートとなった。

次に、関道利さんを議長に選出し議事が進められた。特に支部長挨拶では、自ら再配転攻撃を受けながらも一年間の激戦・激闘を最先頭で担ってきた長田支部長は、情勢を話したあと怒りをこめて「強制配転について当局は色々言い出しているが、黙っているは何も解決

しない。一人一人が声を出し、力を合わせて闘っていこう」と強調され、出席者から「ソ(ダ)の『声援』も出ていた。

総武支部は、組合員の数こそ多くはないがその分、誰にも負けないフア(ト)で労働千葉の先頭を担おうという気概に満ちていた。

来賓には、中野委員長、田中書記長が出席、情勢や今後の展望についてざっくばらんに語りあった。

敵を 見誤ること なく。

その中で力説されたのは「分割・民営化の矛盾が貨物会社に集中している。年末手当の格差付けなど貨物の仲間の怒りは頂点に達している。貨物支部の仲間の試練を全体が受けとめ、敵を見誤ることなく九三年を闘おう」と訴えられた。

培った力を 大きく発展させよう

主な総括と基調・方針が吉野書記長より提案された。その骨子は「十年間、国家あげての未ぞうの攻撃に正面から

立ち向かい満身そういとなりながらも団結を守りぬき、敵の攻撃を全面的破綻においこんできた。この地平を踏まえいかに困難な時にも仲間を信じ、培った力をさらに大きく発展させるために全力で奮闘する。」と総括し解雇撤回闘争、派兵阻止闘争をはじめとする闘う方針を決定していった。

当局J.R総連、 怒り爆発

質疑応答では、最初から最後まで当局とJ.R総連への激しい弾効となった。

「講習に行くのに私服でいいといいながら一方では背広にネクタイで行けなど指示がバラバラ」と当局の「出勤時間」について

【九二年度役員体制】			
役職名	氏名	年齢	職名
支部長	長田 敏之	三三	営指係
副支部長	高野 隆	四八	営業主
書記長	関 一夫	三四	営指係
書記次長	吉野 幸成	四三	営指係
執行委員	大塚 明	四一	営指係
執行委員	岡安 正人	三四	営指係
会計監査	石井 謙次	三四	営指係
会計監査	小守 芳明	三三	営指係

「コンビネ型店舗の労働条件の改善の緊急性」等等である。討論は忘年会にも引き継がれ率直な意見交換の中からガツツリと意思一致ががちとられた。

